

JHFREPORT



心を寄せ合う仲間が必要な団体スポーツ競技

一般財団法人日本航空協会 航空スポーツ室 室長 二川 直人

新年あけましておめでとうございます。

昨年は年始の能登半島地震や羽田空港での航空機事故に始まり、猛暑や大雨による異常気象、米国での政権交代や国内では衆院選与党惨敗など激動の1年でしたが、みなさまのような気持ちで新年を迎えられたでしょうか。日頃より日本航空協会の活動にご理解とご協力を賜っているJHF会員のみなさまに心より御礼を申し上げます。

さて、私は昨年6月に日本航空協会航空スポーツ室長の役職を拝命いたしました。着任からはや7か月が経とうとしておりますが、元々は航空会社で勤務していた割に、ほとんど空を見上げる機会もなく、改めて東京の空がこ

んなにも綺麗であることを気付かせてくれたのが、新たに関わることになりました航空スポーツでございます。

ひと口に航空スポーツと言っても、それぞれの競技ごとに特徴や個性があり大変興味深く、まだ勉強中の身ではありますが、間違いなく感じるのはひとりりて成立することができる競技はひとりりても無く、必ず周りに心を寄せ合う仲間が必要な団体スポーツ競技だということなのです。

これは航空スポーツに限った話ではありませんが、何事も事を進めるに当たっては、いかに周りに自分を理解してくれる仲間や味方を増やしていくかが鍵となり、ひとりりてできることはほんの僅かで、ごくごく限られたことだ

けです。同じ夢や目標を一緒に追求める仲間がいる世界で活躍されているみなさまのことが心から羨ましく思います。特にハング・パラグライダーは自然の風や匂いを自身の体全体で直接体感できることが、他の航空スポーツとは違った一番の醍醐味と言えるのではないのでしょうか。

航空スポーツに没頭しているみなさんの真剣な眼差しや童心にかえった笑顔を見ていると、こんなに心地の良い世界があったのかと、その世界を直に体験する機会が得られて心から幸せを感じています。日頃、思うように事が運ばず気持ちが悶々としたり、イライラすることがあったりしますが、そんな時は少しの時間だけでも空を見上げ、大空を我が物顔で飛び回っている航空スポーツを愛するみなさまに思いを馳せることで明日への活力がみなぎって参ります。これからも安心安全を大前提に大いにハング・パラグライダーの世界を広げていきたいと思っております。

最後になりますが、JHFの今後益々のご発展と、会員のみなさま、ご家族、そして周りの仲間達にとって、この2025年が素晴らしい1年となりますことを心よりお祈り申し上げます。



2024パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 南陽より (10-11ページに報告を掲載)



二川直人

フタガワナオト
2024年6月20日、日本航空協会の航空スポーツ室長に就任。空のスポーツの普及・振興事業を推進する。趣味はカラオケ。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

2025年を迎えて 自由な空・安全な空

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 会長 安田 英二郎



ハンググライダーが日本に入ってきた50年前ころ、日本航空協会が中心となって諸官庁と話し合い、ハンググ

ライダーは統括団体による自主規制、自主管理により飛行を行うという申し合わせができました。そして、私たちの先輩はエリアを切り開き、地元の人々の理解を得られるように努め、技術を研究し後輩フライヤーを育て、現在のJHFを作りあげてきました。

私たちが免許や許可などの規制を受けないで自由に飛ぶことができるのは先輩の方々の努力のおかげです。私たちもこの自由な空を守り続けなければなりません。

自由な空とは、いつでもどこでも勝手に飛べることを意味するわけではありません。航空法などの法律はフライヤーに限らず誰もが守る必要がありますし、一般の人に迷惑をかければ規制を望む声が出てきます。自由な空を守るにはこれからも努力が必要です。

昨年にも不注意による事故が続きました。テイクオフで地面から足が離れたらその瞬間からあなたの命がかかっています。注意すれば防げる事故は防ぎましょう。命を守るため万全の準備をしてテイクオフ。機体と装備に異常がなく完全であり、機体・装備と自分の体がきちんと接続されている、これを確認し、風の変化と他機を警戒して飛びましょう。講習生だったときの基本に立ち返り、安全確認を徹底して事故を防ぎましょう。

今年6月に理事・監事を改選、立候補者を募ります。

JHF役員選任実行委員会

本年6月17日開催予定のJHF定時総会で、現任役員の任期満了に伴う改選が行われます。

JHFの理事ならびに監事の任期は、定款第27条により「選任されてから2年目の定時総会の終結の時まで」と定められています。

以下、JHF役員選任について説明します。

1. 立候補資格者

JHF役員選任規約第9条に定められているとおり、立候補届出時に有効なJHFフライヤー登録者で、かつ所属する都道府県連盟から推薦を受けた方なら、誰でもJHF役員に立候補する資格があります。

ただし、上位の法律（公益認定法）では、公益法人の事業を行うにあたり、役員・正会員・職員に特別な利益を与えることを禁じる旨が明文化されており、自己に有利な利益誘導があれば罰せられます。

2. 選任方法

選任のための役員立候補者の募集活動や、選任事務は「役員選任実行委員会（以下、選任委員会）」が実行します。

役員選任は、概ね以下のとおりのスケジュールで行われます。

◇選任公示

役員選任議題のある総会の約10週間前（4月1日を予定）に選任委員会が選任公示を行います。選任に関する資料を正会員に配布し、JHFホームページにも一部掲載します。

◇立候補締切

総会の約6週間前（5月8日を予定）に立候補受付を締め切ります。

◇立候補者公示

総会の約4週間前（5月20日を予定）に立候補者の公示が行われます。

◇投票

総会当日（6月17日を予定）は、役員選任議題の場で、正会員が投票により立候補者それぞれに選任の決議を行います。開票後、過半数の賛成票を得た立候補者のうち、役員定数内の得票上位者が役員として議決されます。

3. その他

(1) JHF組織

JHFは正会員とフライヤー会員が構成員となり、公益認定時に公益認定等委員会へ届け出た「公益に関わる事業で、かつ不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業」を行います。

JHFの事業や規約等は、法律の範囲で正会員によって構成される「JHF総会」が決定します。総会によって選任されたJHF理事は「理事会」の一員と

して法と定款および総会決議に基づき、責任を持って業務を執行します。

また、総会で選任されたJHF監事は、法や定款および総会決議に基づいたJHF活動が行われているかを監査します。

(2) 理事の主な役割

- 定時総会・臨時総会の招集を行う。
 - 総会議題議案の決定と正会員への通知を行う。
 - 理事会への出席（電磁式理事会への出席も含む）。
 - JHF事業の業務執行と経営統治権限による職務を忠実に執行する。
 - JHFに損害が生じる恐れのある時は正会員に報告する義務がある。
 - 代表理事会長の選定、および解職を行う。
 - 理事の行為によるJHF損害への賠償責任を負う。
 - 委員会の設置および委員の選任権がある。
 - 収支予算・事業計画作成権、会長が作成し理事会が承認する。
- #### (3) 監事の主な役割
- 理事の職務が適正に執行されているかの監査を行う権限と、監査報告を作成する義務がある。
 - JHF業務や財産の状況を調査する権限を持つ。
 - 理事に不正行為の恐れがある時は理

事に報告しなくてはならない。

- 理事会に出席し必要ある時には意見を述べなければならない。
- 理事不作為にかかわる理事会招集請求権を持つ。
- 総会議題議案や資料を調査しなければならない。
- 理事の行為差止めの権限がある。

(4) 理事会

理事及び監事が招集される理事会が年に6回程度JHF事務局にて開催されます。また、電磁的手段（電子メール等）による文書理事会が月に1回程度開催されます。

(5) 正会員へのお願い

本年の役員選任にあたり選任委員会から正会員へ以下をお願いします。
○役員推薦にあたっては、正会員から推薦理由文を提出していただきます。提出いただく推薦理由文は立候補者本人の立候補意思表示と同様に一般に公開いたします。
○立候補者が貴都道府県連盟に所属している事を確認した上で推薦をお願い

します。

○立候補意志表明書（以下、意志表明書）に、立候補者に最低限回答して欲しい質問項目を設けます。立候補者には質問に対する回答を含めて意志表明書を作成していただきます。この質問項目を広く募集します。選任委員会は、正会員からの提案を参考に、意志表明書の作成要領を作成します。質問項目の提案を2月25日まで受け付けます。立候補者に回答を求めたい質問項目がある正会員は、下記にメールでご連絡ください。

jhf-rikkouho-q-2025@googlegroups.com

(6) 役員選任規約の改定について

JHFは公益社団法人です。

昨年（2024年）5月14日に国会にて「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の一部を改正する法律」が可決・成立し、本年（2025年）4月1日に施行されます。

本法改正の施行に伴い、外部理事を設けることが義務付けられます。これに伴い役員選任規約の改定が必要とな

り、制度委員会を中心に検討を進めています。役員選任規約の改定は従来、理事改選の無い年の定期総会に行っていますが、昨年6月の定期総会までに改定案を立案することができませんでした。

このため、役員選任規約の改定を今年の定期総会の議案とし承認される前提で、改定後の同規約に基づいて役員選任を実施いたします。役員選任規約の改定予定内容は役員選任の公示時に提示します。

以上をご理解いただいた上で、JHFの運営を積極的に担っていただける方を広く募ります。ハンググライディング・パラグライディングの未来のために、空の仲間のために活動したいという方、ぜひ立候補してください。

役員選任のスケジュール等は、JHFウェブサイト上でお知らせしていきます。お問い合わせはJHF事務局まで。
info@jhf.hangpara.or.jp

県連だより

■福岡聖子さんのセミナーを開催
群馬県ハング・パラグライディング連盟
当連盟では、11月24日に福岡聖子さんのセミナーを開催しました。

福岡さんの豊富な経験から、最近の機体特性、フランスでSIVを指導する上での出来事、主に事故を起こさないようにするためのリスク対策を含めた安全講習を行うことができました。

50名以上が集まり意見交換もでき、



さまざまなことを学べた貴重な時間となった。



福岡さん（前列中央）の話を聞きたいと50名余が参加。

ハーネスのセッティング方法の確認など有意義な講習会になりました。

■スカイフェスタで笑顔の浮遊体験
福岡県ハング・パラグライディング連盟

12月1日に福岡県久留米市の筑後川河川敷グランドで、スカイフェスタ2024を開催しました。自然の中で空を見上げて笑顔になってもらいたいとの思いで企画し、今年で3度目です。

恒例の企画としては、バルーン係留飛行、パラグライダー体験、モーターパラグライダー飛行観戦、ハンググライダーやシミュレーターを利用した浮遊体験があります。未就学児の家族の参加が多いため、ご当地キャラクターとのふれあいや、モーターパラグライダーで舞い降りたサンタからのプレゼントの配布等、来場者に喜んでもらう企画を満載で行いました。

パラグライダーのトーイングスタッフには、九州各地から仲間が集まり、その技術は年々向上しています。注意事項は端的に説明し、浮遊した不思議な感覚を楽しんでもらえるよう安全なハンドリングを心掛けます。この日は



来場者に喜んでもらうため盛りだくさんの企画を実施。

風も味方して、大人はさておき、子供たちはみな怯むことなく、よく走り、笑顔で浮遊体験ができました。

さらに今年は、VRによる飛行体験のブースを設置。直射日光を避けテント内にシミュレーターを置き、映像が始まると同時にスタッフが映像の説明をしながら、ハーネスを軽く揺さぶります。子供たちはきょろきょろと不思議な異次元空間を楽しみ、大人は実際に飛んでいる感覚で美しい映像や鳥になった感覚を楽しんでいました。

JHFの動き

ハンググライディング日本選手権 クラス1・クラス5合同開催

2025年のハンググライディング日本選手権は、4月26日(土)～29日(火)に山形県南陽市十分一山エリアにおいてクラス1とクラス5の合同開催とすることを12月理事会で承認しました。

合同開催は初めてです。参加をご希望の方はJHFウェブサイトのHG競技委員会のページで要項をご覧ください。

JHF競技会及び選手選考等規程を 制定しました

2024年12月17日の理事会においてJHF競技会及び選手選考等規程を制定しました。ハンググライディング・パラグライディング競技を統括し公平な

競技会の実施を目的とし、規程に定める事項は国際航空連盟 (FAI) のスポーティングコード・セクション7に準拠するものです。

本規程では、日本選手権や世界選手権等の出場資格に「大会期間中有効なスポーティングライセンス (日本航空協会発行) を所持している者」と明記しており、日本選手権や世界選手権等に出場予定でスポーティングライセンスの期限が切れている方は、速やかに日本航空協会に申請をしてください。

なお、前号でお知らせしたとおり申請料が改定されました。1年:2,970円、2年:4,620円、5年:8,030円です。また更新申請の受付は原則有効期限が切れる1ヶ月前からです。

第12回JHFフォトコンテスト 気軽にご応募ください

第12回JHFフォトコンテストを開催します。ぜひご応募ください。応募締切は2025年9月9日(火)です。詳細はJHFウェブサイト上で後日発表します。

JHFレポートアンケートに ご協力をお願いします

JHFレポートについてアンケートを実施中。スマートフォンからも簡単に回答できますのでぜひご協力ください。下のURLまたはQRコードからどうぞ。

<https://tinyurl.com/jhfrepg>



学連ニュース

今回は9月中旬に行われたHGの学生大会nasaSと、11月中旬に行われたPG新人戦の報告をします。

nasaS

nasaSは去年に引き続き今年も3日間全てフライトすることができ、充実した大会となりました。

DAY1のExpertクラスは20.1kmのタスク。風が悪くなかなかテイクオフ出来ず、氏家が独走。しかし、櫻井が最終パイロン間際で追い越しトップゴールする逆転劇を見せてくれました。ゴール者は2名でDQが低くなってしまいました。

DAY2はDAY1より条件の良い予報であり、30.7kmのタスクが組まれました。しかし意外にも渋いタイミングと重なり、サバイバルレースの展開に。櫻井を先頭に数名が最後の沖パイロンへ向かうも途中で降りてしまいます。結果、ゴール者は出ず、ダブル機

で健闘した豊島がデイリートップを獲得。1stクラスでは斎藤がただ1人4つのパイロンを回り、点差を付けて最終日を迎えました。

DAY3、最終日のタスクは短めの20kmで、白熱したスピードレースが繰り広げられました。上手く高度を保ちながら進んだ氏家が先頭を走り、そのままトップゴール、見事1000点を獲得しました。計4人がゴールする良い最終日となりました。

結果は、毎日安定した成績を残した平塚 (Falsada) が総合優勝。1stクラスは最終日に逆転した竹之下 (Falsada) が1位。2ndクラスでは本田 (PFC) が優勝を飾りました。

PG新人戦

パラグライダー新人戦が今年も山形県十分一山で行われ、各地から選手18名が参加しテイクオフおよびランディングの技術を競い合いました。

初日は素晴らしい雲海に恵まれながらも、朝から風向きが悪く、開会式とエリア説明を終えた後は全員で河川敷に移動してグランドハンドリングに励みました。想像以上の強風に苦戦しながらも懸命に練習する姿が見え、付き添いのパイロットの動きには感嘆の声が上がっていました。

夜はレセプションを行い各大学の練



PG新人戦。競技を終え、やり切った表情で。

習状況を話し合ったり、ゲームなどで交流を深めたりしました。始まる頃は若干硬かった雰囲気も終盤には和気藹々とした空気が流れ、次は別のエリアで集まりたいといった声も上がっていました。

2日目は前線が近いながらも爽やかな秋晴れに恵まれ、絶好の新人戦日となりました。選手たちは普段とは違う風や地形に苦戦しながらも、飛んでいるうちに慣れてゆき初めてのエリアでのフライトを楽しんでいました。

競技は無事3ラウンドが成立し、閉会式ではお互いを讃えあい、やり切った表情で溢れていました。運営を通して学生大会の意義を改めて感じることができました。地元インストラクターをはじめとして大会運営にご協力いただいた全ての皆様に改めてお礼申し上げます。

学連理事長 櫻井悠馬

PG新人戦実行委員長 篠崎大河



nasaSの一コマ。毎日フライトでき充実した大会に。

保険について知ろう

第2回：JHFフライヤー会員のための保険

前回（246号）は夏休みシーズンに合わせて、海外からのフライヤーを受け入れる、また海外でフライトするときの保険についておさらいしました。

保険の知識は、すぐに役立たなくても、社会のなかで活動しているフライヤーとして当然知っておきたいことです。「自分には関係ないなあ」と切り捨てず、今回も一緒に復習しましょう。

【JHFが契約している保険】

JHFが保険会社と契約しているフライヤー会員のための保険は、ご存知のとおり次の二つです。どちらもJHFフライヤー会員登録が有効であることが必要です。必ず登録の有効期限を確認し、登録切れにならないよう注意してください。

○フライヤー会員第三者賠償責任保険

会員登録に付帯する保険で、すべてのJHFフライヤー会員が保障の対象です。フライト中に第三者に与えた物的・人的被害について、法的範囲内で補償することを目的としています。ハング・パラグライディングの自由を守るためのものでもあります（次回に掲載）。

●フライヤー自身の怪我等は補償されません。

●故意に起こした事故／あなたが所有、使用または管理する財物の損害事故／同居する親族に与えた事故／あなたの職務遂行に直接起因する事故などについては、保険金を請求できません。

●この保険では、モーターハンググライダーは超軽量動力機体とみなされ補償の対象外です。

[タンデムフライトによる事故]

●タンデムフライトでも、同乗者に怪我を負わせるなど対人・対物事故を起こし法律上の賠償責任が発生したときは、補償の対象となります。但し、同乗者がパイロットの同居親族の場合は対象外です。

●スクール等で業務中の事故や有料のタンデムフライトによる事故では、補償の対象にならないことがあります。

●スポーツをしている間に起きた参加者同士の事故は、そのスポーツの性質やルールについて一定の共通認識を有

する者どうしの賠償事案となるため、タンデム中の事故ではパイロットに100%の過失が生じるケースは少ないと思われます。つまり同乗者の治療費等がこの保険で全額は賄えないこともあるので注意が必要です。

○JHF総合保障制度

フライヤー会員が任意で加入できる団体傷害保険です。パラグライダーでのフライト中はもちろん、日常生活での怪我、救済者費用、海外での事故にも対応しています。地震や噴火またはこれによる津波での傷害についても補償の対象になります。

●第三者に与えた物的・人的被害は補償されません。

●毎年7月から1年間の契約で、4月頃にフライヤー会員の皆さんにご案内をしています。申し込み締め切り後の途中申し込みもできます。

【保険料維持にもつながる安全第一】

上記の保険は契約を毎年更新しています。その都度保険料の見直しがあり、損害や傷害の多額の支払いがあると、保険料に反映されます。フライヤー会員第三者賠償責任保険では、保険料が上がれば会費に大きく影響します。高額保険金の支払いが続いた場合は、保険会社から引き受けを拒否されることも起こります。

万一のときのための保険。誰も使いたくなくて使うわけではないですが、フライヤーの大切な保険を守るため、現在の保険料を維持するためにも、引き続き安全マージンを大きくとって余裕のあるフライトをお願いします。

[他の賠償保険との分担]

フライヤー会員第三者賠償責任保険では、他の賠償保険（自動車保険や火災保険等の付帯保険契約）に加入していれば、保険金を複数の保険商品で分担しての拠出が可能になり、高額保険金支払いを避けることができます。第三者への物的・人的被害の補償が必要になることはあまり想定できないかもしれませんが、他の賠償保険に加入しているかどうか、この機会に確認しておきましょう。

[保険支払い例]

これまでの保険支払いで目立つのは、フライヤー会員第三者賠償責任保険では、ランディング場付近に駐車してある車に接触した破損事故。金額は10万円から200万円ほどです。次に、民家やビニールハウスに降りてしまい雨樋やケーブルを破損した事故で、10万円から250万円ほど。他の人のグライダーを破損した事故では7万円から約70万円。高額支払いではフライヤーどうしの人身事故で2千万円以上になることがあります。

JHF総合保障制度のフライト中の事故の支払いでは、ランディングでの骨折、入院が多く、4万円から15万円ほど。

死亡事故で250万円となっています。

【保険の不正請求は犯罪】

不正に保険の請求をした場合、それは犯罪です。うっかり不正請求をしないよう／させないよう、注意してください。

【イベント等主催者のための保険】

JHFが契約している保険がもう一つあります。主催者賠償保険です。

○主催者賠償保険(施設賠償責任保険)

イベントや競技会で参加者や入場者に怪我を負わせた場合の賠償、また第三者から求められた物的賠償などを法的責任の範囲内でカバーする、主催者のための保険です。JHF主催の検定会や講習会、JHFが公認・後援する大会やイベントに対して付与されています（名義後援を除く）。

●JHF主催・公認・後援の大会やイベントが対象であり、参加者は全員がJHFフライヤー会員でなければなりません。会員ではない人、会員登録が切れている人が一人でも参加していると、事故があった場合に賠償されません。登録について事前の確認が必要不可欠です。

以上、JHFが契約している保険についてざっとおさらいしてきました。フライヤーの大切な保険を守るためにも、2025年も安全にフライトを楽しんでください。

ハーネスの違いによる死角について

JHF安全性委員会 委員 目黒 敏

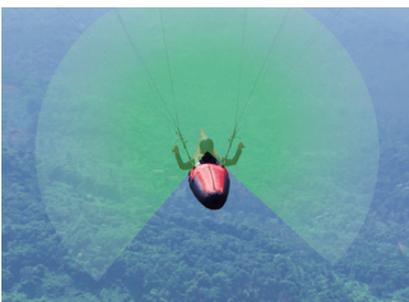
ハーネスは、エアフローの最適化により、ますます高性能化しています。その一方で、パイロットの視界を損なうものともなっています。つまり、死角が大きくなってきています。



2024年、ある大会で考えさせられる事故が起きました。二人のパイロットが尾根に沿ってアクセルを踏みながら同じルートでフライトしていました。後方のパイロットは、先行していたパイロットよりも数メートル高い位置ですぐ後ろを追っていました。低い位置を飛んでいた先行パイロットがアクセルを緩めると、パラグライダーはアクセルにより得たスピードが高度に変換され、後方パイロットのフライト経路を塞ぐように上昇したのです。2機は接触し、ハーネスとキャノピーが絡まり、パイロットはパラシュートを引き出しました。このアクシデントは深刻な結果を招くことなく終わったのです。

このアクシデント後のパイロットのコメントは興味深いものでした。二人とも、互いに非常に接近してフライトしていたにもかかわらず、お互いを見ていなかった（見えなかった）と述べています。

お互い、相手の**ブラインドスポット（死角）**にちょうど位置していたのです。両者とも、“サブマリン”スタイルの最新のコンペティション用リクライニングハーネスを装着していました。パイロットを覆う膨らんだハーネスカバーはあらゆる方向に広がり、周囲の大半の空域の視界を遮っていたのです。



“サブマリン”タイプのハーネスを装着したパイロットの下方視界は著しく制限される。

全方向への視界についてのシミュレーション

死角の問題はどの程度深刻なのでしょう？

ベトナム人PWCパイロットのリー・バック氏は、3Dグラフィックプログラムを使用し、典型的なハーネスを装着したパイロットのさまざまなモデルを作成。それぞれの視界が遮られる部分をシミュレーションしました（下図）。

レッグカバーのない**オープンシートハーネス**を装着したパイロットは、ほぼ全方向を見渡すことができますが、下方と後方については例外です。下方には、太ももとハーネスが視界に入ります。後方については、頭部の回転範囲が限られているため、「死角」が生じます。この図は、視覚の制限を水平、縦方向、横方向の3つに分けて示

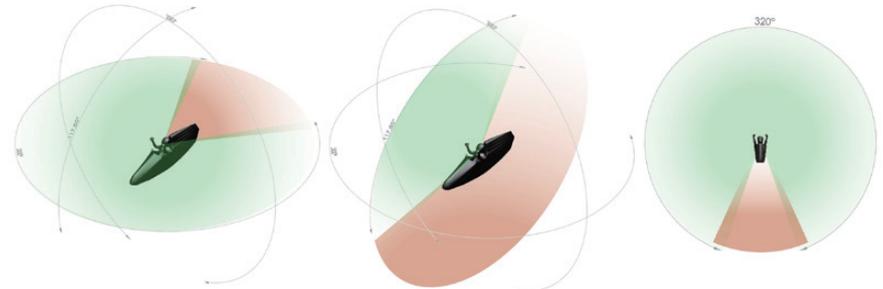
しています。パイロットの視野が水平面のみとした場合（右端の図）、360度のパノラマビューのうち、後方の約30度の部分が隠れてしまいます。

標準的な**レッグカバーハーネス**を装着している場合、死角はかなり大きくなります。伸ばされた脚とレッグカバーにより、前方と下方のさらに広い範囲が遮られます。また、現在では一般的なテールフェアリングが視界の一部を遮るため、死角は後方にも広がります。同様にパイロットの視野が水平面のみとした場合（右端の図）、360度の視界のうち約40度の視界が遮られてしまいます。

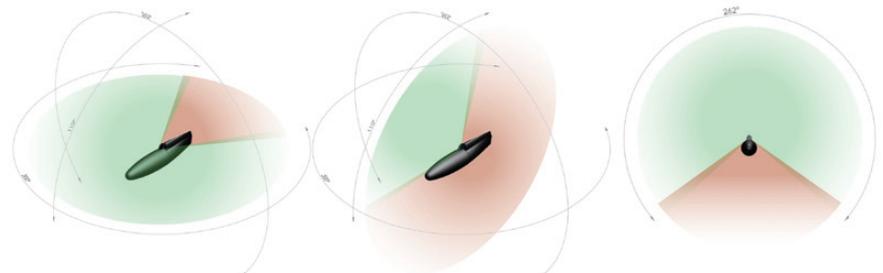
“サブマリン”タイプハーネスの場合、状況はより深刻になります。これらのハーネスはさらに長いテールフェアリングを装備しており、パイロットを覆うハーネスカバーは、内部からの



オープンシートハーネスの死角



レッグカバーハーネスの死角



“サブマリン”タイプハーネスの死角

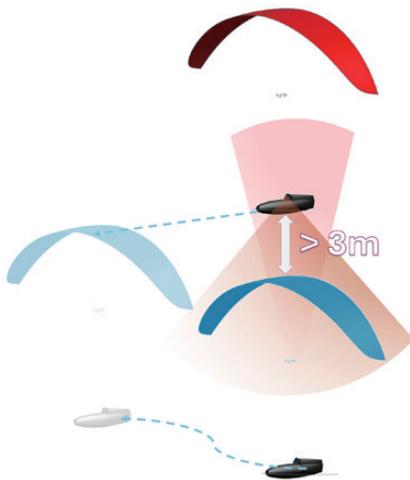
動的な圧力によって膨らんでいます。これが潜水艦のような流線型の形状を生み出しているのです。しかし、この形状によりハーネスはより幅広になり、パイロットが側面から下を覗き込むのは、より困難になります。360度の視界のうち、パイロットの視野が水平方向だけだとした場合、約100度分が遮られています（右端の図）。

パラグライダーが消える

リー・バック氏は、“サブマリン”ハーネスを装着したパイロットが、真下を飛ぶパラグライダーに気づく可能性がある場合についてもシミュレーションを行いました。

少なくとも、フライト中の競技用パラグライダー翼（スパンは約12メートル）は、左右に十分に広がり、すぐに視界に入るだろうと思うでしょう。しかし、計算結果は異なることを示しています。ハーネスによって「隠される」視界の面積が非常に大きいので、真下を飛んでいる翼が上側のパイロットの視界に入るのは、下側のキャノピーが3メートル（！）まで近づいたときだけなのです。それより低空を飛んでいる場合は、隠れたままになります。

したがって、冒頭で述べた事故は、



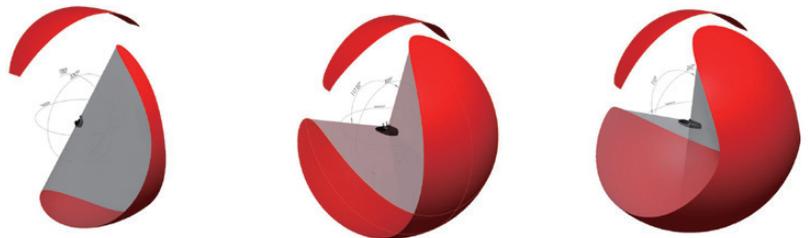
下側のグライダーは少なくとも3mまで近づかなければ翼端がブラインドスポットから出てこない。

ただ単に危険性の例ではなく、拡大する体系的な視認性の問題と、その結果生じる安全上の問題の一例です。

パラグライダーパイロットは、ハーネスの種類によって遮られる視野の大きさを常に意識しておく必要があります。そして、自分自身だけでなく、一緒に空中にいる他のパイロットにも注意を払うことが望ましいでしょう。安全のため、他のパイロットの死角に入らないようにすることが推奨されます。

死角を避ける

他のパラグライダーを視界に捉え、他のパイロットから視認されるためには、彼らの真上や真下を飛んではなりません。その代わりに、他のパラグライダーの飛行経路に対して、ある程度の（横方向の）安全のための余裕の距離を持って、ご自身のルートを計画すべきです。これが、お互いに視認できる可能性を保つ唯一の方法です。空中で通常のレッグカバーハーネスや“サブマリン”スタイルのハーネスを装着したパイロットと遭遇した場合は、さら



手の甲へのミラー装着例

に距離を多く保つべきです。

パラグライダー界ではレッグカバーや特に“サブマリン”ハーネスへとトレンドが移行するにつれ、ブラインドスポットの問題が大きくなっています。視界の死角を減らすツールについて考えることも必要かもしれません。

最もシンプルな解決策は、例えばコックピット、ライザー、グローブなどに装着できる小型凸面ブラインドスポットミラーを使用することでしょう。これにより、少なくとも視界を遮られていた部分の一部は再び見えるようになります。

資料提供：ルシアン・ハース
イラスト：リー・バック

重大事故をゼロにするためにできること

下表のとおり、2024年秋に2件の死亡事故が起きてしまいました。

自然と相対し空を飛ぶこと。その安全を守るのはあなた自身です。自分の技量や体重に適した機体と装備を選ぶ。確実に機体の準備をし、装備を間違いなく装着する。きちんとセルフチェック/クロスチェックを行う。気象情報を確認してフライトの可否を判

断する。法律やエアールールにしたがい無理のないフライトプランを立てる。常に初心に忘れず練習を怠らない。体調を整え、少しでも不調を感じたときはフライトを諦める。フライト中は風の変化や雲の様子、他機の動きなどに注意し続ける。いつも余裕を持って飛ぶ……そんな「当たり前」を大切に積み重ねていきましょう。

2024年の事故報告 9月11日~10月22日

	日付	機材	事故内容	EN	年齢	経験	性別	技能証	怪我の状況
26	9月11日	HG	PGと接触。HGは着陸場に無事着陸。PGは少し損傷しサブラン		19	1	男	B	無傷
27	9月12日	PG	電線に接触し引っ掛かる。約1040軒50分間の停電						詳細不明
28	9月28日	HG	アプローチ時に意図せず対地約70mから旋回。海岸の海上着水		37	11	男	P	無傷
29	9月29日	PG	詳細不明		63	34	男	助教員	死亡
30	10月22日	PG	風が悪い中T/O。片翼潰され旋回しゲレンデ内に落下	B	45	12	男	P	死亡

ウイルスウイング社ファルコンに関する注意点

JHF安全性委員会 委員 山本 貢

ウイルスウイング社のハンググライダー、ファルコンのセットアップ時に注意すべきことを皆様にお伝えいたします。

同機のコントロールバーの組み立て時、エルボーブラケット穴と、ベースバー穴の位置を合わせて、ボルトを挿入するようになっていますが、これがベースバーを完全にエルボーブラケットへ挿入しないまま、ベースバーの穴を通らない形でボルトを通してしまっ



ベースバーが完全に入っていないままボルトがとめられた状態。

た事例が、既に国内だけでも数件発生しています。

同伴に関しては、完全にヒューマンエラーと言えるものではありませんが、同機のオーナーの皆様には、今一度注意喚起しておく必要があるでしょう。

同ミスをした場合、**テイクオフと同時にベースバーが外れて翼が折れてしまいます**。このミスの恐ろしいところは、**外見がいつもと変わらずに見えること。そして、テイクオフするまでそのミスに気がつかないことです**。

ハンググライダーはその構造が単純なため、セットアップミスがあればたいてい機体に変形が生じ、直ぐに見つけることが出来ますが、しかし、今回の事例については、機体の形がいつもとほとんど変わらないため、そのミスに気がつきにくく、より注意が必要と言えるでしょう。

同ミスを防止するため、以下の対策を実際に実施し効果を上げていますので、ここにご紹介しておきます。

下の写真のように、ベースバーにエルボーブラケットに接する形でビニールテープを巻いておきます。

こうしておけば、ベースバーを所定の位置まで挿入したか、その確認が容易となるため、上のセットアップミスも大幅に削減できます。



テープの場所まで挿入すればミスは防ぐことができる。

セーフティーツ

□Finsterwalder & Charly製 パラロック3

フィンシュテルバルダー&チャーリー製のパラロック3（クイックアウトカラビナ）のすべてのユーザーは、次のフライトの前に機能チェックを行うよう求められています。

これは、誤った操作が原因で、フライト中に意図せずに開いてしまうことが何度かあったためです。トラブルを回避するためには、ユーザーによるチェックが必要です。

このパラロック3は、リリースレバーを約45°動かすことで解除できる仕組みです。パラグライダーと接続する際には、そのレバーを正しい位置へ動かすことにより、自動的にロックされます。今回、該当しているトラブルを回避するためには、取り付けた後に、逆方向の力を加えて、正しくロックされているかを確認してください。

この機能チェックはフライト毎に



定期的にも実施してください。チェックして問題がある場合は、パラロック3をメーカーに返品する必要があります。特に、リリースボタンを押して、テイクオフの前にリリースレバーが確実に固定されていることを毎回確認してください。

さらに、パラロック3は、追加のブロック機構が作動している状態でしか飛行できません。これはタンデム使用だけでなく、単独使用にも適用されます。さらに、パイロットは飛行中にカラビナのブロックを解除してはなりません（緊急パラシュート展開後は除く）。



リンク先：
JHFウェブサイト

JHFフライヤー会員の皆様へ メールアドレスを 登録してください

登録はこちら↓



JHFでは、会員管理システム等の改修を準備中です。郵便料金値上げへの対応、事務効率化のため、システム改修後は更新通知や会員証等の発行・発送等について、メールを利用してご案内していく予定です。またマイページで各種届けができるよう検討していきます。つきましては、上のQRコードからフライヤー登録番号・お名前・メールアドレス・携帯電話番号などをご登録ください。

会員サービス充実のため皆様のご理解とご協力をお願いします。

パラグライダー普及に何ができるかと考えて…



パラグライダーとの出会いは必然か……と感じる。

■パラグライダーを始めるきっかけ

私がパラグライダーとかかわるようになったのは、必然かもしれません。父親が自衛隊勤務だった影響か、ミリオタ（軍事兵器マニア）となり自衛隊の航空祭や基地祭に行っていました。学校は飛行機関係の学科に通い、航空機関連メーカーに就職。以前開催されていた但馬コウノトリ空港の航空祭にも毎年通い、モーターパラグライダーやグライダー、ウルトラライトプレーン、オートジャイロなどのデモ飛行を間近で見て、一番手ごろに始めるにはパラグライダーがよさそうだと結論になりました。

私は兵庫県明石市に住んでいるので、近くで評判の良いところを探し、



スクールを探しロールアウトPGスクールに辿り着いた。

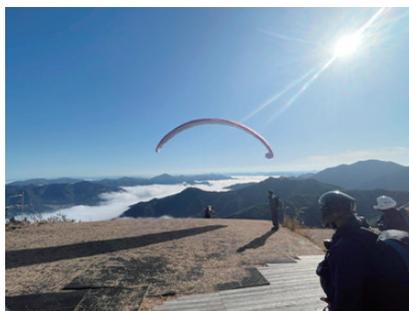
ここだと決めたのが「ロールアウトパラグライダースクール」です。

■エリアの特徴や魅力

校長先生はパラグライダーの黎明期から飛ばれており「サーマルが見える岩屋山の仙人」ともいえるスペシャリストで厳しい時もありますが愛のあふれる指導は的確です。歴代のJ1大会のチャンピオンが多く所属しているレベルの高さも魅力です。

岩屋山エリアは兵庫県の南北の中間付近にあり、コンバージョンが発生しやすく風向きも安定しています。山の高さは600m前後が多く1000m以上の高い山が付近に無いので、峰に沿ってクロカンもしやすいです。テイクオフランチャーは南向きと北西向き、東向きで、高いフライト確率を誇ります。

粟鹿山（962m）まで足をのばせば2000m以上のフライトや以前CMで有名になった（天空の城）竹田城に行くこともできます。春には見事な雲海が発生し、雲海上を飛ぶとブロッケン現象が発生します。空から眺める加古川の桜並木は素晴らしいです。積雪は例年数日程度なのでテイクオフを除雪してから雪原へのランディングもよくあります。エリア範囲としては岩屋山を中心として南西は安全山、北西が粟鹿山まで20km程度で、天候が良ければ2時間程度で周回が可能です。



岩屋山はフライト確率が高く、雲海上を飛ぶことも。



青垣地区の四季折々の美しい自然を楽しみながら飛ぶ。



パラグライダーの素晴らしさを多くの人に伝えたい。

■これからの目標は？

少子高齢化・スポーツ人口の減少傾向の現状において、私はパラグライダー普及に何ができるかと考えており、コツコツできることから始めています。

まずはスクール生の皆さんのテイクオフ写真の撮影。各自の反省と研鑽とスクールのブログ用に写真を使っただけき好評を得ています。

また、動画サイトに自分のフライト動画をアップ。パラグライダーの素晴らしさが一般の方の目に触れるようにと考えています（“かつのパラグライダーチャンネル”で検索を）。アクシデント動画の類は再生数が伸びますが、パラグライダーフライトだけでは再生数が伸び悩むのも事実なので難しいところですね。

少しでもパラフライヤーを増やそうと職場の同僚たちにも声をかけていますが、なかなか参加する人が増えないのは現実です。JHFの施策だけに頼らず、各人が普及するため何ができるか今一度考え直す時期に来ているように思います。安全に注意して事故を出さないようにするのは一番ですが、高齢化に伴い次第に減数する会員数を座視するのではなく会員として何かできないものではないでしょうか？

パラグライダーというスポーツの名前は知っているが触ったこともないという方は世の中の大多数で、始めるきっかけがなかなか無いのが現状だと感じます。何ができるか今後も悩みながら貢献できることを探していこうと思っています。

■この記事はダイジェスト版です。全文はJHFウェブサイトでご覧ください。バックナンバーも掲載しています。

花田瞬が初栄冠！女子は橋本みさ紀が選手権奪還！

2024年10月12日-14日 山形県南陽市南陽スカイパーク 報告：大会実行委員長 金井 誠

10月12日（土）から3日間、山形県南陽市の南陽スカイパークでアキュラシー日本選手権が開催されました。

地元フライヤーによるジャッジチームは準備万端、更に選手も楽しくスタッフも楽しく地元市民や観光客にもエリアに来て貰ってスカイスポーツに親しんで貰おうと、十分一山テイクオフの後方には、パラグライダーVR体験や風作りなど子供達に興味を持って貰えるような催しを企画しました。観光協会の物産展や手作りパン屋さん、似顔絵屋さん、おもちゃ屋さん、キッチンカーでの飲食サービスなど様々な出店をしていただき十分一山が賑わいました。

Day1 (10/12)

高気圧に覆われ青空と穏やかなコンディションに恵まれました。前日からの晴天に雲海が発生し視界が開けた午前10時頃からフライト開始。静大気の中でDC（誤差0cm）やパットランなど好記録が続出しハイレベルな戦いになりました。順調に競技は進み第3ラウンド終了。第4ラウンド途中で夕方の吹き降ろしが始まり、追い風サスペンデッドとなりました。

午後7時から歓迎レセプション。南陽市長を始め議会や観光協会の方々を来賓に招いて一緒に楽しく飲みながら、地元の理解と応援に感謝を伝えるとともに選手や地元フライヤーの声を届けました。

Day2 (10/13)

高気圧の中心は東海上に移り、本流は東風ながら濃い雲海が発生する程に接地逆転は強く、置賜盆地の中は静穏でした。今日も視界が確保できるとすぐに第4ラウンドの続きから競技開始。日中はサーマル成分のお蔭で飛び立ち易い風が続きましたが、空中ではやや上げ下げのあるコンディションとなり、皆さんランディング間隔を確保したり刻々と変わる風向風速に苦戦しながら第7ラウンドまで終了。その後も時折吹き込む東風の合間に競技を進めましたが午後3時過ぎから東風の吹



好記録が続出、ハイレベルな戦いとなった。

き降ろしが支配的になり、第8ラウンド途中で追い風サスペンデッドとなりました。

Day3 (10/14)

気圧の傾きは更に大きくなり朝からテイクオフには東風が時折強く吹き込んでいました。サーマルブローで飛び立てるタイミングはありましたが荒れ風が予想され、競技性は無いという事で、セーフティコミッティも満場一致で午前9時過ぎに競技キャンセル。選手の皆さんには、特設会場でパラグライダーVR体験などの出店が並ぶ「スカイマルシェ」や「青空ヨガ教室」を楽しんでいただいた後に、笑顔の表彰式となりました。

選手・スタッフの皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

[スクラッチクラス総合]

- | | | | |
|----|-------|----|-----|
| 1位 | 花田 瞬 | 石川 | 24 |
| 2位 | 横田 開 | 埼玉 | 43 |
| 3位 | 岡 芳樹 | 東京 | 82 |
| 4位 | 森山 拓 | 大阪 | 223 |
| 5位 | 河本 勇吉 | 大阪 | 228 |
| 5位 | 和田 浩二 | 静岡 | 228 |

[スクラッチクラス女子]

- | | | | |
|----|-------|----|-----|
| 1位 | 橋本みさ紀 | 大阪 | 437 |
| 2位 | 伊藤まり子 | 愛知 | 710 |
| 3位 | 菊田 久美 | 宮城 | 712 |

[ハンディキャップクラス総合]

- | | | | |
|----|------|----|---|
| 1位 | 花田 瞬 | 石川 | - |
| 2位 | 横田 開 | 埼玉 | 1 |
| 3位 | 岡 芳樹 | 東京 | 6 |

[チーム]

- | | | |
|----|--------|----|
| 1位 | ひなたほっこ | 42 |
| 2位 | びよびよ | 49 |
| 3位 | おむすび丸 | 51 |

日本選手権者から



花田 瞬

大会優勝経験があり良いイメージの南陽での日本選手権。グライダーはテストで飛びまくったので道具も気持ちも準備万端でスタートしました。

苦手だった風が弱めのコンディションでも、外して楽しくなるのは嫌で、5ラウンド目までは無事全て一桁台でまとめました。6ラウンド目で風と高度を見誤り、パット外に降りてしまいました。次はしっかりと修正し、執念で3cm。ライバル達も調子がよかった為、崩れず等身大で勝ち抜いたことを嬉しく思います。

2位の横田選手、女子優勝の橋本選



スクラッチクラス1位～6位。



競技終了、海外からの選手も交えて記念撮影。楽しい大会となった。

手をはじめ、多くのダビンチユーザーの方と勝利を共有でき、そして何より、自分たちで作ったグライダーの性能を出し切って、日本選手権者になれたことが幸せです。次は世界と戦えるよう数センチの調整を練習していきます。そして2025年は、日本のアキュラシーのレベルを上げられるよう、世界の大会で勝負し、研究してこようと思います。

橋本みさ紀

アキュラシー日本選手権を開催いただいた南陽スカイパークならびに関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

南陽特有の雲海から大会の幕が開け、幾多のラウンドを経て、ようやく手にした日本選手権者の称号を大変嬉しく思います。

アキュラシー競技は、着地技術のみ

ならず、フライト前からの集中力と平常心の維持が試される競技です。今回も失敗する場面はありましたが、選手仲間と互いに称え合いながら挑み続けたことが、この結果につながったと感じています。

世代を超えて競い合えるアキュラシー競技で、私もなお一層の高みを目指し、挑戦を続けてまいりたいと思います。

2024 Hang Gliding ClassV日本選手権 in 足尾

板垣直樹、全日ゴールで8回目の選手権獲得!

2024年10月11日-14日 茨城県石岡市足尾山ハンググライダーエリア 報告:大会実行委員長 板垣 直樹

昨秋は悪天候が多く、期待が薄かった今大会だったが蓋を開ければ全日ゴールで大当たりの大会となった。

Task 1 (10/11)

好条件に恵まれ、午後の早い時間に東に笠間の奥まで約18km、南は竜神山の18kmで折り返し北西に約20km、最後は西南西に22km、関城ゴールの78.1kmのビッグタスク。前半は丘陵地帯が続き、降りる所の少ない難しいレグ。櫻井、山本が先行するが選手全員が慎重にターンポイント(以下TP)をクリアする。第二TPをクリアすると足尾方向と板敷方向に向かう選手に分かれたが、大差が付く事なく第三TPをクリア。しかし冷たい北東風が入り始め、平野の雲底が下がり渋くなって半分以上がランディング。そんな中、2位に8分の差をつけた山本が2時間34分でトップゴール。少し遅れて宍戸、板垣が続き、計5人の選手がゴールした。

Task 2 (10/12)

雲が多く、雲底は低くサーマルも弱い条件。ゴール地点まで行ってそこから12kmのビッグシリンドラーを出て戻るタスク、初の試みとなるコンセントリックサークルを使った約61km。

スタート前の渋さも西の平野に出ると好転。前半は櫻井が単独で引っ張りコンセントリックサークルで南を選択するも早々に降りてしまった。その後、北東に向かった古坂。北に向かった板垣達のグループ、西に向かった内藤、南に向かった山口と分かれたがそ

れぞれがゴール。選手の大半がゴールし初の試みは成功した。

Task 3 (10/13)

テイクオフ付近は北風が強く激荒れの為、上がらずにランディングしてしまう選手や西側に出て降りてしまう選手も少なくなかった。平野に出て一旦上がった選手は1500~1800m程を進むが北風が強く、雲の無い中でそれぞれが単独で慎重に進んでいった。栃木県壬生から埼玉県加須のレグでは、北東に変わった風で藤岡の遊水地のCTRに入ると失格になる選手やCTRを避ける為に高度を下げ降りてしまう選手もいた。そんな厳しい条件で一人強気に飛んだ櫻井が2位に7分以上の差をつけてゴール。その後、板垣、岡田、塩野、古坂がこの関東平野を存分に楽しむタスクでゴールした。サーマルは強いが風も強い難しい条件の下、コンバージェンスを上手く読んだ、77.9kmの良いタスクだった。

Task 4 (10/14)

テイクオフオープン後、予報に反して弱風でテイクオフが止まり、一時タスクキャンセルかと思われたが何とか全員がスタート前にテイクオフ。激渋の中、何とか粘って上げた選手はそれぞれのタイミングでスタート。テイクオフ前を2往復した選手は僅かに薄日のさす西側平野に出るが弱くて少ないサーマルに苦勞する。

大半の選手が距離を伸ばせずに降りてしまう中、岡田、板垣、櫻井の順番でしぶとく粘りゴールした。ゴール3



全日タスク成立、充実した競技だった。撮影:櫻井さやか



上位3名の選手たち。撮影:櫻井さやか

人のタイム差は1分以内と白熱したレースだった。

4日間で山本、古坂、櫻井、岡田とタスクトップが入れ替わり、全日上位でゴールした板垣が昨年に続き2年連続、8回目の日本チャンピオンに輝いた。4本ゴールの岡田が2位、3本ゴールの櫻井が3位と続いた。

この時期としては最高の条件の日や激渋の日もあり、また日本初のコンセントリックサークルを使ったタスクもありの充実した競技が成立し、素晴らしい日本選手権だった。

[総合]

- | | | | |
|----|-------|-----|------|
| 1位 | 板垣 直樹 | 茨 城 | 3753 |
| 2位 | 岡田 伸弘 | 静 岡 | 3700 |
| 3位 | 櫻井 大朗 | 栃 木 | 3241 |
| 4位 | 古坂 学俊 | 茨 城 | 2838 |

5位 宍戸 俊之 茨城 2500
6位 塩野 正光 栃木 2187

日本選手権者から

板垣 直樹

競技として絶好の条件だったのは初日と2日目で3日目は強風で激荒れ、最終日は曇天で激渋とバラエティーに富んだ4日間だった。そんな中で日本

選手権にふさわしい難易度の高いチャレンジなタスクで、毎日ゴール者が出る価値のあるものだった。

毎日約4時間、フリーではなかなか飛ばない条件、場所を飛ばしたのは選手権ならではの、一緒に切磋琢磨し競い合える仲間がいるからに他ならない。

今回は初めてのコンディションで初めてのタスク、初めての場所、初めて

のゴールと多くの素晴らしい経験を積むことが出来た。一度もタスクトップを獲れずに総合優勝出来たのも初めての経験で、今後のフライトに繋がるだろう。そしてこの歳になっても多くの学びがある事を改めて感じられた。

この素晴らしい大会の全ての関係者に心より感謝し、お礼を申しあげます。

2024ハンググライディング日本選手権 in 紀の川スカイグランプリ ネクストジェネレーションズの活躍に期待を

2024年12月12日-15日 和歌山県紀の川フライトパーク 報告:大会実行委員長 外村 仁克

2024ハンググライディング日本選手権 in 紀の川スカイグランプリは12月12日から15日までの4日間の日程で、和歌山県紀の川フライトパークで開催された。

コロナ禍の影響で今回の日程となったのだが、北斜面をメインとした当エリアで日照時間の少ないこの時期の競技はタスク距離の設定が難しく、50kmをMAXのスピードレースを行うべく事前に検討を重ねた。

結果的には初日のDQ0.98のほぼ一本のみの成立となり、日本選手権者は選ぶことができなかったが、ハンググライディングシリーズの競技としては成立し、優勝者の鈴木博司選手をはじめ、2位田中元気選手、3位大門浩二選手、4位砂間隆司選手、5位氏家良彦選手と、ポイントランキング上位者が並ぶ結果となった。

初日、12時過ぎにテイクオフしたウインドダミーが北西の風のなか順調に上昇し1400mまで達する様子を見て、12時15分のTOオープンと同時に47名のうちほとんどの選手がテイクオフして、競技は順調に進むかと思われた。が、ほんの20分ほどの間に風向は北東～東北東3mと変化していた。飛び出した選手が500m以下の高度でスタックしている中を上位の選手はそれでも上昇していく。スタートゲートの13時30分に鈴木博司、少し遅れて桜井悠馬らがゲートを切った。スタート前の混雑に巻き込まれて田中元気、大門浩二、砂間隆司らはスタートが遅れたように見えた。

ゴール者は鈴木、田中、大門、砂間の4名となった。2位の田中はスター



オープンクラス総合1位～6位



女子1位～3位。3位は桜井さやかと鳥海真弓が同率。



学生1位に輝いた桜井悠馬はこれがシリーズ選デビュー。



2025年度こそ多くの大会が成立することを祈って。

トが遅れているものの最短タイムでゴールして来た。上位者が順当に上位を占めている中、6位に入賞した桜井悠馬はタスクを間違えるミスでゴールはできていないが、リーディングポイントは優勝者に次ぐ2位のポイントを得ている。筆者も13時30分に鈴木が高く出発するのに追従していたので、低いままトップを追いかける桜井悠馬には気が付かなかった。

競技2日目はエラップススタートの35.9kmのタスクが組まれたが、ほとんど競技性のない状況で10名のミニマム点のみとなった。

天候に恵まれず2024年度の日本選手権は覇者を見出せなかった。そのことは残念だが、今大会のように見慣れない選手の中に「おっ」と思わせる飛びが出てくる事がある。次々と現れる

ネクストジェネレーションズに期待したい。

[オープンクラス]

1位	鈴木 博司	岐阜	967
2位	田中 元気	大阪	944
3位	大門 浩二	茨城	903
4位	砂間 隆司	愛知	852
5位	氏家 良彦	兵庫	773
6位	桜井 悠馬	東京	762

[女子]

1位	佐野 容子	和歌山	337
2位	野尻 知里	茨城	317
3位	桜井さやか	栃木	261
3位	鳥海 真弓	東京	261

[学生]

1位	桜井 悠馬	東京	762
2位	今村 奏海	千葉	543
3位	平塚 大樹	東京	380

パラグライディングJ, J2, AJリーグ/ハンググライディングシリーズ リーグトップを勝ち取ったパイロットから

2024年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして、年間ランキングを決定しています。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して大会の開催数が回復してきた一方で、例年にない気象条件に翻弄された大会もありました。

どんな条件のときも集中して勝利したトップランカーにとって2024年はそのような1年だったのでしょう。そして2025年シーズンは……

PGジャパンリーグ

[総合]

1位	荒井 大悟	千葉	4011.6
2位	小林 大晃	三重	3963.0
3位	岩崎 拓夫	京都	3887.8
4位	多賀 純一	神奈川	3860.4
5位	平木 啓子	茨城	3812.3
6位	中村 浩希	愛知	3788.8

[総合女子]

1位	平木 啓子	茨城	3812.3
2位	山下 敦子	兵庫	3767.3
3位	中目みどり	東京	3521.4

[スポーツクラス]

1位	小林 敦之	東京	3443.8
2位	下野 悠敬	兵庫	3079.3
3位	杉山 卓也	神奈川	3071.6

[日本代表選抜]

1位	小林 大晃	三重	262.97
2位	荒井 大悟	千葉	253.90
3位	岩崎 拓夫	京都	253.14
4位	中村 浩希	愛知	236.60
5位	多賀 純一	神奈川	229.50
6位	橋本 耕一	埼玉	228.55



総合1位
荒井 大悟

Jリーグに参戦し始めて苦節10年、ようやく年間1位にたどり着くことができ、大変うれしく思います。ここ数年は成績の波が激しく、2023年はシード落ちしてしまったこともあり、2024年の目標は「安定したレース展開をす

る」と掲げました。高度の優位性を保ちながら冷静にフライトすることを意識した結果、年間を通じて好調を維持できたのだと思います。

これまでは、自分自身が若手コンペティターとして上位陣にガシガシ噛みついてきましたが、近年は更なる若手選手たちの成長も著しく、現状維持ではあつという間に抜かれてしまうのではないかと危機感もあります。ベテランフライヤーの教を学びながら、全国の若手フライヤーとともに、さらに進化していけるよう努めていきたいと思っています。

2025年は、日本選手権者と年間ランキング1位のダブル受賞を目指して、気合を入れて挑戦します！ レースが今から楽しみです！



女子1位
平木 啓子

2024年はミスの多い年でした。特に初戦の足尾では、移籍したばかりとはいえ地元エリアであるにもかかわらず高度制限を超えて0点を取ってしまいました。その後も計器が見えないなどの準備不足や気はやって飛び立つタイミングを間違えるなど、色んなミスを連発しました。そして後半戦はお天気に恵まれず、もやもやとした大会が続きました。

でもそんなことは、皆に同じように起きていることですよ。完璧なレースなんて一生のうちに1回できるかどうか。如何にミスを無くし、ミスした時はリカバーし、そして勝利に近づけるか。ミスの多い自分は、リカバー力はソコソコあると思っていますので、根本のミスをなるべく少なくする、これが2025年の自分の目標です。

Jリーグ女子1位になることができとても嬉しいです。また2025年もトップを狙ってライバルたちと切磋琢磨し、日本のパラグライダー競技界を盛り上げていけたらと思います。これからも応援よろしくをお願いします。



スポーツクラス1位
小林 敦之

2009年までオートバイのレースに真剣に取り組んでおり、それなりにやり切った感じになっていました。そこで何となく体験した観光タンデムがパラグライダーを始めるきっかけでした。ライセンスを取った後はクロカンとSIVを楽しみ、それなりに満足していましたが、所属しているエリアヤマザキのメンバーから「大会に出よう」と誘われ、2023年からJ2に参戦しました。大会に出始めるとやっぱり真剣になってしまう性分なので、2024年からJ1フル参戦を始めました。

初めてのJ1フル参戦はとても楽しかったのですが、しかし一番の経験は3月末の足尾での墜落でした。SIVの取り組みでグライダーコントロールには自信がりましたが、強烈なガストの中では何もできませんでした。この時は梨園の金網に落ちて事なきを得ましたが、コンディションを読むことの重要性を痛感しました。

今後も大会への出場を続けますが、自分自身でしっかりコンディションを確認し、自主キャンセルする勇気を持ちたいです。2025年もスポーツクラスに参戦し、クラス1位継続を目指して頑張ります。

PGジャパン2リーグ

[総合]

1位	能祖 雄大	神奈川	2986
2位	下野 悠敬	兵庫	2753
3位	小林 敦之	東京	2695
4位	佐藤 研斗	茨城	2522
5位	後藤 春菜	東京	2500
6位	花村 泰明	新潟	2401

[女子]

1位	後藤 春菜	東京	2500
2位	多賀 綾子	神奈川	1861
3位	鈴木 彩	神奈川	1857

[チーム]

1位	スカイパラグライダーズ	17
2位	ポンコツ	16
3位	丹パラA	14



総合1位
能祖 雄大

J2参戦2年目で年間優勝を果たせたことを大変嬉しく思います。大会に出るからには優勝を狙っていましたが、少しできすぎた成績に自分でも驚いています。

8月の尾神で初優勝した勢いのまま、次戦の足尾では2日ともタスクトップを獲得し、ほぼ満点の2986点を集めることができました。ホームエリアである足尾や、何回も飛んだことがある尾神では良い成績を残している一方で、初めて飛ぶエリアや空域では判断ミスが多く、経験不足を痛感しています。

2025年のJ2は新しいエリアでの開催も噂されており、さまざまなエリアを経験できる機会を提供して下さる大会関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

2025年も連覇を目指して頑張りますので、これからもよろしくお願いいたします。



女子1位
後藤 春菜

まさか自分がJHFレポートにコメントできるなんて、大変光栄です。

特に思い出に残っているのは、尾神で行われた「よしかわ杜氏の里カップ」と、ホームエリアでの「Sky grand prix in ASHIO」です。尾神では、渋い条件の中、リフトを見逃さずに走り切り、大量の高性能機を抜かしたのが爽快でした。また、足尾ではケアレスミスにより、2日間ともゴールを逃してしまい、大変悔しい思いをしました。

2024年は、とにかく大会に出られるだけ出ようと思い、J1、J2とプレ大会含め10大会に参加しました。特に、J2の全大会に参加できたことが、このような成績を収められた一番の理由だと思います。好条件の大会に出られたことと、様々なエリアで20キロ以上のタスクを飛ぶことができ、大変勉強になりました。また、全国のフライヤーの方々と交流することができ、とても楽しい一年でした。2025年もどうぞよろ

しく願います。大会を開催して下さった各エリアの皆様、運営に携わった全ての方に感謝申し上げます。

PGアキュラシージャパンリーグ

[スクラッチクラス総合]

- 1位 河本 勇吉 大阪 178.2
- 2位 花田 瞬 石川 155.1
- 3位 和田 浩二 静岡 138.3
- 4位 横田 開 埼玉 136.0
- 5位 橋本みさ紀 大阪 109.0
- 6位 塚原 隆信 茨城 99.8

[スクラッチクラス女子]

- 1位 橋本みさ紀 大阪 109.0
- 2位 坂口 杏 京都 49.2
- 3位 山口 香代 東京 46.8

[ハンディキャップクラス総合]

- 1位 花田 瞬 石川 175.4
- 2位 横田 開 埼玉 155.0
- 3位 河本 勇吉 大阪 150.1
- 4位 橋本みさ紀 大阪 107.9
- 5位 和田 浩二 静岡 96.0
- 6位 梅迫 賢一 兵庫 92.7

[ハンディキャップクラス女子]

- 1位 橋本みさ紀 大阪 107.9
- 2位 坂口 杏 京都 88.0

2024年パラグライディングJ, J2, AJリーグを振り返って パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

1) Jリーグ

9大会が開催され、一応すべて成立した。一応という意味は、大会成立条件が、1本でもDQ(タスクの内容がどれほど選手の技量を反映しているかを示す係数で1が申し分ないタスク、ゼロはほとんど意味がないタスクとなる)がゼロを超えれば成立となるからだ。やはり選手としてはDQが1、悪くとも0.6を超えないと、戦った感がありません。

2024年前半はコンディションに恵まれ各大会で最低1本はDQ1のタスクが成立し、2本とも1の大会もあって順調だったが、後半は台風の影響を受けほとんどのタスクがDQ0.2以下となり、後半戦に追い上げを狙った選手には不運なこととなった。それでもランキングに計上できるタスクが10本成立したのでまずまずの出来であった。その中で、6タスクでトップを取った荒井選手が昨年より24個ジャンプアップして今年のリーグチャンピオンとなった。

2) J2リーグ

5大会が開催され、Jリーグ同様一

応すべて成立した。しかし、Jリーグ同様、前半戦はすべての大会でDQ1のタスクが成立し、2本とも1の大会もあって順調だったが、後半は台風の影響や強い冬型の気圧配置により、何とかタスクが成立したが選手的には不完全燃焼となり、ランキングをひっくり返すことはできない残念な結果となり、1日ずれていれば良かったのに、と主催者泣かせのエンディングとなってしまった。

そのような厳しい条件の中、成立した6本タスクのうち3本でトップを取った能祖選手が今年のリーグチャンピオンとなった。また昨年の31位から2位に躍進した下野選手ともに、20代前半と、今後の活躍が大変楽しみです。

ようやく参加者も増え始め、J2の認知度も上がってきているのはうれしい限りだが、大会数がやや少ないのが気になる。これまでリーグ大会(Jも含めた)を開催したことがないエリアでJ2リーグ大会を開催するエリアにはJHFから補助金が出ます(2025年度は未定ではありますが)ので、ぜひご検

討をお願いいたします。

3) アキュラシーリーグ

5大会が開催されたが、成立したのは3大会のみだった。初開催の沼田大会は期待が高かったのだが、コンディションが悪いとのことで中止となってしまった。また最終戦の高山も残念ながら選手数名がフライトした時点でコンディションが危険と判断され成立するラウンドが無しとなってしまい、3大会の成立で終了となり、大変残念な結果となった。

最終結果は、2大会でトップを取った河本選手がリーグチャンピオンとなった。2位には花田選手、そして4位には横田選手と共に20代の若手で、こちらも将来が楽しみです。アキュラシーリーグも開催される大会が少ないので、J2同様、これまでアキュラシーリーグ大会を開催したことがないエリアでアキュラシーリーグ大会を開催するエリアにはJHFから補助金が出るように考えていますので是非ご検討をお願いいたします。

3位	内田 薫 埼 玉	39.0
[チーム]		
1位	丹バラA	21
2位	スカイ朝霧	17
3位	おむすび丸	15

[日本代表選抜]

1位	河本 勇吉 大 阪	253.20
2位	和田 浩二 静 岡	210.35
3位	花田 瞬 石 川	207.35
4位	古田 岳史 東 京	180.85
5位	横田 開 埼 玉	165.70
6位	岡 芳樹 東 京	161.70



スクラッチクラス
総合1位
河本 勇吉

アキュラシー競技に出て3年目で年間1位になれて大変嬉しく思います。

アキュラシー競技に出たきっかけはルーキー1位に景品でグライダーがもらえるというのを聞いたからでした。練習すればするほど順位も上がっていき、いつの間にかアキュラシーの面白さにはまっていました。

2024年シーズンは5大会中3大会しか出ることができなかつたですが出た大会すべてが成立して、シーズン初めの朝霧では2戦とも優勝できたのがよかったです。そして南陽で行われた日本選手権は大きなミスをしてしまい、自信があっただけに非常に悔しい思いをしました。

2025年は世界選手権もあるので今以上に精度を高められるよう練習に励みます。



スクラッチクラス
女子1位
橋本 みさ紀

2024年度も大会を開催してくださった関係者の方々、及び、新たなエリア

での大会を計画・準備していただいた方々に心より感謝申し上げます。

2024年は天候の影響で大会成立数が思うように増えず、結果は必ずしも実力だけではなかったと思っています。

一方で近年はアキュラシー競技に特化したグライダーの登場、優秀な若手選手の活躍もあり、競技のレベルが着実に上がってきており、こうした中で成績を維持するためには、より一層練習が必要だとプレッシャーと楽しみを感じています。

2025年度も安定して成績を出せるよう、また競技全体も盛り上がるよう、周りに声をかけながらアキュラシー練習を続けていきたいと思います。

HGシリーズ

[クラス1 総合]

1位	砂間 隆司 愛 知	1835
2位	鈴木 博司 岐 阜	1816
3位	大門 浩二 茨 城	1773
4位	名草 慧 大 阪	1680
5位	氏家 良彦 兵 庫	1579
6位	田中 元気 大 阪	1516

[クラス1 女子]

1位	野尻 知里 茨 城	1409
2位	中村 思絵 大 阪	773
3位	櫻井さやか 栃 木	627

[クラス1 世界選手権選抜]

1位	大門 浩二 茨 城	5345.5
2位	砂間 隆司 愛 知	5273.5
3位	鈴木 博司 岐 阜	5256.5
4位	田中 元気 大 阪	5150.5
5位	大陽 智仁 茨 城	4881.0
6位	名草 慧 大 阪	4762.5

[クラス5 総合]

1位	板垣 直樹 茨 城	158.0
2位	古坂 学俊 茨 城	108.8
3位	岡田 伸弘 静 岡	106.0
4位	岩崎 正芳 群 馬	94.8
5位	櫻井 大朗 栃 木	77.1
6位	豊田 良平 神 奈 川	76.1



クラス1
総合1位
砂間 隆司

過去、世界選手権選抜ランキングで1位になったことはあっても単年度のランキングで1位になったことはなかったので、自身初の年間ランキング1位です。

今のランキングは大会の総合成績よりも、1本の競技でいかに高得点を取れるかが重要視されている為、ゴール優先で飛ぶ私のスタイルだと、なかなかトップにはなれませんでした。ただ、ゴールが難しいタスクになると、多少遅くてもゴールすると高得点となるので、巡り合わせによっては今年みたいなことも起こるんだと思います。それでも、好条件のスピードレースでも1000点近い点が取れるように改善していきたいです。時代と共にルールが変わって、自分には縁がないようにすら思っていたランキング1位。今は素直に喜びたいです。



クラス1
女子1位
野尻 知里

Class1競技は天候に恵まれない一年でした。成立本数も少なくトリッキーなコンディションも多く、中止や延期が飛び交いました。印象的だったのは早めに出られたことが功を奏した西富士。スタートしてから一度も回さずゴールしたのは初めてでした。

バンバンの条件のほうが得意で、サバイバルは苦手…を克服するために最近心掛けていることは、月並みですが降りるまで諦めないこと。どん曇っても、弱～いリフトでも、まだ時間はある、このサーマルにしがみついたらいつかチャンスが来るかもしれない

2024年ハンググライディングシリーズを振り返って

ハンググライディング競技委員長 牟田園 明

2024年のハンググライディングクラス1競技は6大会で計10タスクを消化することができたが、Day Quality0.9を満たすタスクが3本しかなく、競技内容としては低調な1年となった。

とはいえ明るいトピックスがいくつかある。3月の板敷の大会では海外から有力選手を招致し中身の濃いフライ

トができた。シリーズランキングでは砂間隆司選手が苦節30年で初のシリーズ1位を獲得し、継続することの大切さを示してくれた。

大会運営ではクラス1とクラス5の合同開催が定番化して新しいシナジーを生み出しており、来年は南陽エリアにてクラス1・クラス5合同日本選手

権(史上初)を開催することが決定している。

競技はフライトを楽しむ一つの形ではないが、競技でしか得られないものはたくさんある。

たくさんの方の競技参加をお待ちしています。

い。サーマルが集まるかも、晴れ間が来るかも、鳥さんが他の機体が近くでより良いリフトを見つけてくれるかも。半端な高度でこのまま進んで終わるよりは、この風の当たる側でもう少し探してみよう、とか。LDできる場所までの安全高度を確保しつつ（←これが重要）降りなければいつかゴールできる！ここで上がればとりあえず次のTPを取ってから降りることはできる！と今日もしがみついています。

最後に、大会を開催・運営してくれる皆様、一緒に飛んでくれる皆様、いつもありがとうございます！



クラス5
総合1位
板垣 直樹

クラスVの大会は年々徐々に増え、開催地も増えてきた。参加選手も徐々にではあるけれど若返る良い傾向にあ

る。私自身は毎年、年を取り参加選手の平均年齢を上げる要因になっていきますが…。

2024年は西富士ジャパクラシックに始まり、EJC足尾、スカイフェスティバルIN南陽、ClassV日本選手権 in ASHIOの4大会があり、成績は西富士で準優勝、EJC優勝、スカイフェスティバルin南陽は優勝、日本選手権も優勝と好成績を残せた。

もちろん結果も嬉しいが、それぞれの大会、タスクで記憶に残るフライトができ、素晴らしい経験となった事が何より嬉しい。それらの飛びは、それぞれのエリアの経験となり、刺激にもなったと思う。そして私の経験はこれからの全ての大会の可能性を広げるためにフィードバックしていきたい。

大会開催に尽力していただいたすべての方々、また大会に参加したすべての選手に感謝致します。

これからもっと、 私はスポーツを楽しむんだ。

卓球歴24年。バスケ歴1日。

卓球の200倍もの重さがあるボールは、なかなか言うことを聞いてくれない。

それでも、体を動かすだけで気持ちがいい。初対面でもあっという間に仲間になれる。

競技人生での楽しさとは違う、スポーツの楽しさに出会えた。



スポーツを極める人も、楽しむ人も、
すべての人のために、
スポーツくじの収益は使われています。

スポーツくじ WINNER TOYO BIG

スポーツくじは、スポーツと人を育てる仕組み。

各種申し込み／お知らせ／ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務効率化のためできるだけメールでのご連絡をお願いします。

*このJHFレポートには、神奈川県在住の方に限り県連盟からのお知らせを同封しています。

JHFレポート248号

発行日：2025年（令和7年）1月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト

本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

デジタル方式なので混信が少なく、クレーマーで聞き取りやすくなっています。上空利用5チャンネルまたは15チャンネルを搭載している現在の対応機種は、STANDARD製のVX-D291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、IC-DPR4 PLUS、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHFウェブサイトにはバナーを掲載しているJHF賛助会員からも購入できます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を13台保有し、フライヤー会員に貸し出ししています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているかご確認ください。

登録をしないまま無線機を使用しますと、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いいたします。